

令和7年度 第2回四万十市まち・ひと・しごと創生会議 議事概要

- 日 時 令和8年1月21日（水） 10:00～12:00
- 場 所 四万十市役所本庁舎3階 防災対策室
- 出席者 委員15名のうち出席12名
推進本部員13名、事務局2名 ※別紙：出席者名簿添付

○配布資料

会議次第

【資料1】令和7年度第1回まち・ひと・しごと創生会議 委員後日意見

【資料2】策定スケジュール（案）

【資料3】（仮称）第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

【資料4】地方創生に関する総合戦略（抜粋）

【資料5】地方創生2.0概要

（参考1）委員名簿

<結果概要>

1 開会

- ・会議成立報告

2 議事

（1）委員後日意見について

事務局より資料に沿って説明

質疑

会長：

今回の会議で意見をいただき今後ということでしたが、今後というのは次回第3回創生会議までということですか。

事務局：

整理できる部分は第3回までに整えて示したいと考えています。

会長：

わかりました。

委員：

宿毛市の振興計画を参考にしながら、婚姻届出件数や出生数の目標値をこれから考えていくということですか。

事務局：

本市の取り組みと沿うかどうかは検討する必要がありますが、どのような指標を設定することでより分かりやすいものとなるか考えていきたいと思えます。

委員：

わかりました。前回の合計特殊出生率よりも今回のほうが良いと思えます。

（２）策定スケジュールについて

事務局より資料に沿って説明

質疑

事務局：

補足です。今年度国の新たな総合戦略の考えを反映して骨格的な案を作成したうえで、取り組み内容につきましては国も次の夏頃に新たな方針を示すと通知されているので、そういった考えを含めながら令和8年度中に修正も行っていきたいと考えている。細かい部分の意見は次年度にいただきたいと思えます。

会長：

資料4・資料5について説明いただけるタイミングはあるのでしょうか。

事務局：

総合戦略案の時に、総合戦略の基本目標についての補足説明を考えている。

（３）（仮称）第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

①人口ビジョン（案）について

事務局より資料に沿って説明

質疑

委員：

39頁で転入は超過するという見込みであっていると思うが、転入超過すると分母が大きくなるので出生数が下がったら出生率も下がる傾向になるのではないかと。計算方法はどのようにされていますか。

事務局：

詳細な資料を手元に持ち合わせていないので、後日説明します。

委員：

今回のビジョンだと街中に集中して、中山間地域の維持が難しくなるように思うが地方のビジョンはどうなっていますか。

事務局：

市全域での試算となっているため地域や地区ごとの試算はしていないが、総合計画のほうで中山間地域の振興・維持について明記している。例えば考えられる事業として公共交通を確保し、どの地域に住んでいても買い物などの移動に不便がないような地域を作っていくことを組み組みながら集落の維持を考えていきたい。

会長：

今のご指摘は町の中心部に人口が集まるだけではなく、中山間地域も振興できるような策を今後考えるべきと捉えてはどうでしょうか。計画の中身のほうでしっかり盛り込んでいくという指摘ではないかと思います。

委員：

パブコメの時にこの案を読んだ市民の方々は、「合計特殊出生率とは何だろう」となると思います。簡単に言うと、15歳～49歳までの女性が一生のうちに1人あたりが生む子どもの数という解釈でいいでしょうか。

委員：

そう言ってしまうと誤解しますが、とりあえずその年の人口÷何人生んだかを確かめていく。だから若い人が5人しかいなかったら、その人が1人産んだら0.2になります。

委員：

そのような注釈を入れたらどうでしょうか。女性1人が2.07目指すとなると、2人産まないといけないのかと誤解を与えかねないのではないかと。

企画広報課：

市民の方が分かりやすいように伝え方を工夫する。

(3) (仮称) 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

②総合戦略(案)について

事務局より資料に沿って説明

質疑

委員：

75 頁に合計特殊出生率の説明が書かれていますね。これについて、女性の皆様は読んで違和感などはありますか。

会長：

他の自治体では基本目標に合計特殊出生率は入っていないのでしょうか。

委員：

私が知っている限りでは県の令和 9 年度のこの手の計画の目標値は出生数で、参考までに合計特殊出生率というのは書かれている。もしかしたら令和 10 年度以降の県全体の計画では合計特殊出生率はなくなる可能性がある。

会長：

先ほどの意見で確認で目標値に出生数は入っているが、出生率は入っていないということですよね。

委員：

この手の計画に合計特殊出生率も入ってはいるが、前面に出ているのは出生数です。

会長：

四万十市さんの 75 頁の書き方は両方ということですか。

事務局：

現状は両方を併記することを考えている。

企画広報課：

前回の会議の時に他市の状況なども教えていただき、市の判断として、合計特殊出生率は市民の方は理解しづらいだろうということもあって、分かりやすいのは出生数ではないかという意見もいただいた。75 頁、人口ビジョンもですが市民の方に分かりやすい指標も追加したという位置づけで案を作成しています。県の削除理由等あれば教えていただきたいです。

委員：

県は令和 10 年度以降、出生数は目標で残して合計特殊出生率は削除する可能性が高い。ただ四万十市として合計特殊出生率を目標値にすることに反対はしません。

会長：

おそらく出生率を行政の計画に掲げていくということはナンセンスだということではないか。

委員：

小さい自治体は1人が2人産んだらかなりの振れ幅になる。例えば20歳の人が1人しかいなかったとしても2人産んだら、それだけで2になって足しこんでいくので2以上になります。だが、それで人口が増えるということではない。

会長：

相関がないということですね。岡田委員が言いたいのは表現として控えたほうがコミュニケーションとしてはいいのではないかと。このことだと思います。観点として女性に対してコミュニケーションミスにならないようにしてほしいということですよ。もうひとつは四万十市がそこまで気にすることではないかもしれないが相関がないということです。これからパブコメを実施するにあたり、コミュニケーションミスがないようにしっかりとしてもらいたい。

委員：

これがKPIになるわけではなく算出ロジックでしかないのだから載せる意義がないなら、数字は載せない方がいい。計算の間のことを数値化を出す必要はないという意味でいくと、目標数値ではないと思います。

委員：

率も振れるので、それよりも数が維持できないと人口が維持できません。それ以外には入ってくるのと出るのをどれだけ調整するかしかない。

事務局：

今ご意見いただいているとおり不要と考え、削除に向けて検討していく。

企画広報課：

少なくとも数値目標は不要だと思います。

委員：

人口ビジョンもだが、戦略のブランドデザインが市民の方からするとイメージとして入りづらい。冒頭でブランドデザインがイメージで分かる絵を中心にしたほうが、後ろの44頁以降のつながりが分かるのではないかと。

また前回からの課題をこうした戦略になっていることがイメージで分かるようになっていくと、詳細が入った時に分かりやすいのではないかと。

企画広報課：

可視化について検討する。

会長：

これまで10年間行ってきたことを計画にどう反映させていますか。

事務局：

その部分の可視化については現段階では対応できていないので、そのような視点も踏まえて分かりやすい計画策定に取り組んでいく。

会長：

全部は難しいかもしれないので、例えば主なポイントのような形で示していくのもあるかもしれない。この考え方はこのように変えた、この取り組みはこのように進化させているといったところではないかと思います。

委員：

戦略実現性を考えた時に、過去の日本の人口減少の環境と外的要因と比べると前回の戦略よりも尚厳しい環境で戦っていく戦略になっている中で数値目標は上がっている。ギャップをどこで埋めるのか仮設根拠がどれだけ明確にあるのかは気になりますが、実現するのが目的と考えた場合いかがでしょうか。

会長：

例えば、ここというのはありますか。

委員：

75頁の出生数だと書いていることは正しいが、母数が減って環境も厳しい中で、なぜならばこういうのがあって、ここに至っているというのが繋がっているかどうかというのが文章からは読み取れない。

会長：

例えば75頁だと令和3年から666あったが、令和8年から11年で792となっているがどうやっていくかは考えられているかということでしょうか。

委員：

単純計算としては議論されているとは思いますが、外部要因としては厳しいものが出ているはずです。

会長：

環境が厳しくなる中でどう上げていくのか、目標値をどのような位置づけにしているのかということだと思います。

事務局：

75頁で示した出生数の目標値は国の方針に合わせた試算となっており、どう増やしていくかという具体的なところはまだ整理できていない。県の戦略の資料を参考にしながら組み立てていきたいと考

えている。

委員：

戦術論については今後議論する場はあるのでしょうか。民間企業の考え方だと数字を構成するために5W1Hのロジック展開をして実行するための仮説があり、来年度に数値通りできているかPDCAの分析をすることができます。

企画広報課：

数値目標は国のビジョンと合わせ、各分野の現状と照らし合わせて目標値は設定しているため積み上げ式の目標になっていないことはご理解ください。各施策、体系ごとに定めた取り組みをしながら目標達成していくというところでしか示せない状況です。ただ、これまでチェックと改善を落とし込めていなかった実情があるので、新しい戦略の進捗管理上そういったことも強化して行っていきたいと考えている。分野ごとに具体のアクションプランなどを下に定めるといのは現在考えていない、フォローしながらやっていきたい。

会長：

まち・ひと・しごと創生総合戦略は戦略であって、今後のフォローアップでしっかり可視化していくのは1つの手ではないかと思えます。

委員：

仕事について全体的な目標などは立てられているが各分野に落とし込んだ時はどうか。就農者が減っているというのも他分野と比べて稼ぐ力が落ちてきていることがあると思われる。仕事を維持するために目標値を就農者数ではなく、平均所得など儲ける力を目標値にして、達成するためにどのような施策をするか落とし込んで目標達成していくことで、農業に従事してみようという人が増えるのではないか。観光についても観光客単価や滞在日数が増えれば落ちるお金が上がっていく。結果的にそのような目標値に落とし込んでいくことで、目標を達成するための細かな施策になっていくと思う。1つ大きな業者があって達成してしまったら、人はそれほどいらぬということになる可能性もある。もう少し細かく刻んだものを設定するといいいのではないか。

会長：

今のは働く人が増えるというKPIだが、儲かると働く人が増えるので儲かるというところをちゃんとすることで働く人が増えるのではないか。KPIの階層があるということでもいいでしょうか。

事務局：

そのような視点を踏まえて組み立てていきたいと思えます。

委員：

おおもとがあって各分野でばらしていると思うので、その目標値をお金に繋がるようなものにしてはどうか。

会長：

KPIの中にも重要度があるのではないかとということではないかと思えます。54頁で書かれているKPIが全て独立しているわけではなく、因果関係や相関があるところを図化していくと緻密になるので来年はロジックモデルを作る中でしっかりと整理してはどうでしょうか。また、KPIを並列に見るのではなく、2番のKPIは儲かるにとって重要だという話があるなら重点的にするような事業展開も考えられるのではないかとということではないでしょうか。

委員：

関連して、来た人がお金を落として帰ってくれるというようなイベントが四万十市にとってはありがたいと思う。今後はお金と人のリソースをグラデーションをもって、最適化ということを考えて、落ちるところに人とお金を入れていくようなことも考えていくべきではないか。

委員：

12月～2月の冬場は観光客が少なく、そのような時期にはスポーツツーリズムなどに取り組んでいてもらいたい。四万十市にはこの学校、宿毛市にはこの学校というようにして互いに試合ができるような仕組みにするなど、幡多地域全体で進めてもらいたい。

質問で63頁の広域におけるスポーツ客数191,000人というのは市内の宿泊者数240,000人で、それ以外に191,000人スポーツ客数がいるということですか。

観光商工課：

この数字は幡多広域の計画の中で作っている数字で、スポーツ大会の参加者数やスポーツキャンプに来た人数だと思う。全員が宿泊しているわけではないと思うので集客者数とは乖離があると認識しています。

委員：

地域ブランド調査における魅力度というのは現段階でこのような調査をするというのはありますか。

事務局：

現段階で具体的な指標は持ち合わせていないが、民間企業が実施している調査等を活用できればと考えている。

事務局：

例としてブランド総合研究所が毎年1回、2006年からしている調査があります。自治体によっては研究所が出しているランキングの順位を上げることを指標に掲げていたりもするので、使ってみてはどうかということを出している。ほかに大東建託からも出されていたりするので活用できればと思います。

会長：

誰かが調査したものなので、活動した内容が反映されるのかは気になるところ。ちゃんと上げられる努力ができるのかというところに気を付けてもらえればと思う。

委員：

70 頁で土佐くろしお鉄道の利用者数までは書かれているが、予土線の目標値も必要ではないか。K P I に観光的に鉄道利用の促進を掲げてもらいたい。

事務局：

予土線の利用者数の目標値については基本目標 2 の 67 頁の中山間地域の生活支援という整理で掲載している。広域連携と観光の推進といった意味でも再掲するという方向で再度検討します。

委員：

乗っているのはほとんど観光客で、もはや地域のものというよりは観光化している。列車の中から素晴らしい景色が見れて海にも行けるという評価もあるので、広域として考えていただきたい。

委員：

D X のところでウェブデザインやプログラミングなどが A I に代わってなくなりつつあると思うが、これからどうやって今まであった仕事を超越したやり方についていくかといったことを教える拠点がしまんと sixs だと思う。女性の活躍ということで新しい技術に追いつける変化に強い人材を作る拠点になっていくといった今後の展望を教えてください。

委員：

去年度の 4 月から D X 推進ということで携わってきた身として回答します。求められる人材に受け入れられる企業体にしていくことが一番大事だと思っている。地域の企業が都市部に負けない会社経営ができる組織体にしていけるようにしまんと sixs が支援していくというのが川上論です。その手法として女性活躍の技能習得の主催提供や、業務効率改善の知識やサービス・技術の提供というのをロジックとして作っていきたいと考えている。女性活躍でいうと須崎市が去年 8 月に女性活躍を推進する施設を強化してやろうとしており、連携をして四万十市に取り込んでいくことで女性活躍の場を実現していきたい。ただ女性が活躍できるステージを企業が提供できないと人が残らない。残るに値する価値を四万十市が作り出せるのかというのが受け入れられる企業ということです。都市部に出ているか給料か、同等の豊かな人生を提供できる受け入れができないと人が残っていないと考えると、しまんと sixs はそのような企業を増やすということが最優先です。それを強化するために人が足りない部分を、デジタルを活用して価値を生み出す。女性活躍の場でいうとなかなか男性ができないところや、隙間時間を活用できる仕組みを提案していく。

また、人と技術のシェアが大事だと思っている。1 つの企業だけではなく、能力がある 1 人が複数の企業で働くという機能もしまんと sixs の中で作るなど、最終的に地元の企業が魅力あるものになる

お手伝いをしていくということを考えている。

委員：

しまんと sixs のある程度のカリキュラムをこなし、都会の企業にも紹介できるような、スキルの認定を与えて、四万十市に住みながら都会のお金を引っ張ってくるといったこともできたらいいのではないのでしょうか。

委員：

すでに企業に務めている四万十市の方々に対して、スキルアップの機会の提供など今のような話を実現するようなモデルも作っていきたいと思っている。今は中村高校とも仕掛けを考えて取り組んでいるところです。

委員：

講座を受けたからと言って人柄までは分からないので、しまんと sixs が紹介するような施設があったらいいと思います。

委員：

先日参加した大阪での高知移住フェアでは四万十市はとても人気があった。女性起業のビジネスコンテストのようなものがあると市民だけでなく市外に住んでいる人がチャレンジしたり、チャレンジするために総合計画を見たりといったことがあるのではないかと。町づくりをしたいという若者や、資格取得したら戻りたいけどどうしたらいいかといった相談があり、女性や若者が四万十市に住む可能性はあるのもっと発信していければいいのではないかと思います。

3 その他

事務局よりスケジュール等の説明

4 閉会 12:00

令和7年度 第2回四万十市まち・ひと・しごと創生会議 出席委員名簿

◎：会長、○：副会長

分野	所属	役職	氏名	備考
産業界	中村商工会議所	副会頭	右城 一仁	
産業界	西土佐商工会女性部	副部長	○ 高屋 美穂	
産業界	四万十市観光協会	副会長	渡邊 亨	
行政機関	高知県産業振興推進部	地域産業振興監 (幡多地域担当)	岡田 哲也	
行政機関	幡多福祉保健所地域支援室	地域支援室長	芝岡 美枝	
大学	国立大学法人 高知大学 次世代地域創造センター	准教授・UBC (地域コーディネータ)	◎ 岡村 健志	
教育機関	四万十市教育研究所	所長	藤原 昭彦	〈欠席〉
金融機関	四万十市金融協会	会長	市川 普久	
労働関係	四万十公共職業安定所	所長	吉井 典之	
労働関係	株式会社山間屋	会長	中脇 裕美	
その他	子育て応援団 「ほっと・ポケット」	会長	宮本 ルミ	〈欠席〉
その他	NPO 法人スマイルはたっこ	理事長	久保 美保	
その他	地域移住サポーター		須山 美樹	
その他	公募委員		福本 ゆいか	〈欠席〉
その他	株式会社フォーバル (四万十市派遣)	CIO 補佐官	中 洋介	

令和7年度 第2回四万十市まち・ひと・しごと創生会議推進本部 出席者名簿
 〈本部長〉

職	氏名	備考
西土佐総合支所長兼地域企画課長	佐川 徳和	
地震防災課長	安岡 栄治	
企画広報課長	武田 安仁	事務局長
健康推進課長	竹本 美佳	
子育て支援課長	中脇 弘樹	
高齢者支援課長	橋田 慎也	〈代理出席〉
観光商工課長	遠近 由幸	
農林水産課長	吉田 貴浩	
まちづくり課長	中山 良	〈代理出席〉
上下水道課長	岡村 速人	
福祉事務所長	渡辺 和博	
生涯学習課長	戸田 裕介	
産業建設課長	竹本 志郎	

〈事務局〉

企画広報課長補佐	宇都宮 朋彦	
企画調整係長	田中 佑典	